

○ファームウェアのリビジョンアップを行う前に必ずお読みください

- ・ Rev. 15.02.03より前のファームウェアからリビジョンアップを行う際には以下の点にご注意ください

Rev. 15.02.03では以下の変更をしています。

「RTX830 Rev. 15.02.03 リリースノート」より、
https://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/relnote/Rev.15.02/relnote_15_02_03.html

[1] 本機にアクセスするときのセキュリティーを強化した。

(8) 工場出荷状態の設定にtelnetd host lanコマンドを追加した。

Rev. 15.02.03以降のファームウェアを使用して工場出荷状態からプロバイダーを設定すると、上記のコマンドが設定されているため遠隔からTELNETでログインができなくなります。
遠隔からTELNETでログインをする場合はtelnetd hostコマンドの設定を変更してください。

- ・ Rev. 15.02.13より前のファームウェアからリビジョンアップを行う際には以下の点にご注意ください

「DPIを使用したアプリケーション制御機能」に対応したRev. 15.02.13以降のファームウェアへリビジョンアップすると、Rev. 15.02.10、またはそれ以前のファームウェアに対して工場出荷状態でのメモリー使用率が10%程度上昇します。

メモリーの空き容量が十分あることを確認のうえ、リビジョンアップを行うようにしてください。

○RTX830 Rev. 15.02.31 からの変更点

■機能追加

- [1] Web GUIのかんたん設定の[VPN]-[リモートアクセス]で、IKEv2を用いたリモートアクセスVPNに対応した。
- [2] Web GUIの詳細設定で、[VPN]-[拠点間接続]ページを追加した。
現在は以下の接続種別のみ対応。
 - IPsec/IKEv1接続 (IPv4/IPv6 over IPv4)
 - IPsec/IKEv1接続 (IPv4/IPv6 over IPv6)
- [3] L2MSマネージャーでSWX2210/SWX2210Pシリーズの消費電力を取得できるようにし、Web GUIのLANマップの機器詳細ビューに表示するようにした。

■仕様変更

- [1] L2MSの処理性能を向上させた。
- [2] DPIの識別精度を向上させた。

- [3] L2MSで、端末管理機能が有効なとき、show status switch controlコマンドの出力結果にエージェントに接続している端末数を表示するようにした。

○エージェント一覧の表示

[書式]

show status switch control [INTERFACE]

[設定値及び初期値]

・ INTERFACE

[設定値]: LAN インターフェース名、ブリッジインターフェース名、VLAN インターフェース

[初期値]: -

[説明]

エージェントの一覧を表示する。INTERFACE を省略した場合は、すべてのインターフェースについて情報を表示する。

L2MS の動作状態に応じて、以下の情報を表示する。

・ L2MS のマネージャーとして動作している場合

- ・ MAC アドレス
- ・ 機種名
- ・ 機器名
- ・ マネージャーからの経路
- ・ アップリンクポート
- ・ エージェントを操作するときに指定する経路
- ・ 現在使用している設定内容
- ・ エージェントに接続している端末と消失した端末の合計 (端末管理機能が有効なときのみ)★

・ L2MS のエージェントとして動作している場合

- ・ マネージャーの MAC アドレス

[ノート]

ブリッジインターフェースは RTX1210 Rev. 14. 01. 20 以降のファームウェア、および、Rev. 15. 02 系以降のすべてのファームウェアで指定可能。

VLAN インターフェースは RTX1210 Rev. 14. 01. 42 以降、RTX830 Rev. 15. 02. 30 以降、および RTX1220 Rev. 15. 04. 07 以降で指定可能。

- [4] 以下のコマンドで、宛先が0.0.0.0かつネットマスクが0でない経路を入力できるようにした。
- bgp force-to-advertise
 - ip INTERFACE rip force-to-advertise
 - ip route
- [5] show status status-ledコマンドで、(console columnsで成形される前の文字列で) 4096文字以上の出力結果を確認できるようにした。
- [6] show status ipv6 dhcpコマンドで、Information-Requestに対するReply内の以下の情報を表示するように変更した。
- DNS server
 - Domain name
- [7] sip useコマンドで、設定をonからoffに変更したときに再起動を促す警告メッセージを表示するようにした。
- [8] Web GUIで、IPsec接続の表記を以下の通り変更した。
- 変更前
 - IPsec
 - IKEv2
 - 変更後
 - IPsec/IKEv1
 - IPsec/IKEv2
- [9] Web GUIのダッシュボードの[Live]-[プロバイダー接続状態]ガジェットで、IPv6 IPoE接続のとき、接続種別のツールチップに詳細情報を表示するようにした。
- [10] Web GUIのダッシュボードの[Live]-[プロバイダー接続状態]ガジェットで、以下の

プロバイダー接続のとき、状態にIPv4アドレスを表示するようにした。

- IPv6 IPoE接続
 - BIGLOBE IPv6 オプション
 - BIGLOBE IPv6サービス (IPIP)
 - OCN バーチャルコネクト 動的 IP 契約
 - OCN バーチャルコネクト 固定 IP 契約
 - transix IPv4 接続 (固定 IP)
 - v6 コネクト IPv4 over IPv6 接続 (IPIP)
 - v6プラス IPv6/IPv4インターネットサービス
 - v6プラス 固定 IP サービス
 - クロスパス (Xpass) 固定 IP1 契約

[11] Web GUIのLANマップの以下のページで、スイッチの機器名に入力可能な文字数と文字種をエージェント側の仕様に合わせるよう変更した。

- [スイッチの設定・保守]-[機器名の設定]
- [機器一覧]-[機器の設定]

[12] Web GUIのかんたん設定と詳細設定の[プロバイダー接続]の以下のページで、インターフェースIDのエラーチェックを強化した。

- BIGLOBE IPv6サービス (IPIP)
- transix IPv4 接続 (固定 IP)
- v6 コネクト IPv4 over IPv6 接続 (IPIP)
- v6プラス固定 IP サービス
- クロスパス (Xpass) 固定 IP1 契約

[13] Web GUIのかんたん設定および詳細設定の[プロバイダー接続]で、以下のプロバイダー接続のとき、接続状態にIPv4アドレスを表示するようにした。

- IPv6 IPoE接続
 - BIGLOBE IPv6 オプション
 - BIGLOBE IPv6サービス (IPIP)
 - OCN バーチャルコネクト 動的 IP 契約
 - OCN バーチャルコネクト 固定 IP 契約
 - transix IPv4 接続 (固定 IP)
 - v6 コネクト IPv4 over IPv6 接続 (IPIP)
 - v6プラス IPv6/IPv4インターネットサービス
 - v6プラス 固定 IP サービス
 - クロスパス (Xpass) 固定 IP1 契約

[14] Web GUIの以下のページで、IPv6 IPoE接続を設定しているとき、設定の一覧の接続種別に、詳細情報を表示するようにした。

- かんたん設定の[プロバイダー接続]
- 詳細設定の[プロバイダー接続]

[15] Web GUIのかんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]-[IPsecに関する設定]で、「接続先のホスト名またはIPアドレス」に入力するときのエラーチェックを強化した。

[16] Web GUIのかんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]-[IPsecに関する設定]で、MTUを設定できるようにした。

[17] Web GUIのかんたん設定の[アプリケーション制御]で、「フィルターと経路の設定」から設定するアプリケーションに、以下のアプリケーションを追加した。

- Office365 : MS Copilot

[18] Web GUIの詳細設定の[プロバイダー接続]で、接続種別が「DHCP、または固定IPアドレスによる接続」のとき、プロバイダーの設定画面からMTUの値を設定できるようにした。

■バグ修正

[1] ルーター稼働中にごく稀にリポートすることがあるバグを修正した。

[2] SYSLOG出力時にリポートすることがあるバグを修正した。

Rev. 15.02.31で発生する。

- [3] VPN機能で、対向から通常の通信では発生しない異常なパケットを受信したとき、リポートすることがあるバグを修正した。
また、このようなパケットを受信したときには、以下のデバッグレベルのログを出力しパケットを破棄するようにした。
- Packet dropped on インターフェース (duplicate tunnel encapsulation)
Packet dropped on インターフェース (multiple tunnel encapsulation)
- [4] IPUDPを使用したデータコネクト拠点間接続で、データコネクトの切断時にファストパスのフローがあるとリポートすることがあるバグを修正した。
- [5] NGN網接続機能で、リナンバリング時にリポートすることがあるバグを修正した。
ルーター広告を送信するインターフェースが多い場合に発生する。
- [6] SFTPサーバー機能で、一部のSFTPクライアントから接続されたときにリポートまたはハングアップするバグを修正した。
- [7] IPsec機能で、既に設定されているipsec transportコマンドを変更または上書きするとリポートすることがあるバグを修正した。
- [8] SYSLOG送信機能で、SYSLOGパケットの送出インターフェースがダウンしているときにSYSLOGパケットの送信が発生するとリポートすることがあるバグを修正した。
- [9] ファストパスで、仮想LANインターフェースで受信したパケットを処理すると、リポートする可能性を排除した。
- [10] console characterコマンドをja.utf8に設定しているときに、コンソール上でシフトJISで対応していない文字コードを入力するとリポートするバグを修正した。
- [11] ステートレスDHCPv6クライアントまたはDHCPv6-PDクライアント機能で、SIP Servers IPv6 Address Listオプションが設定されたメッセージを受信したとき、メモリーリークが発生するバグを修正した。
- [12] 起動後にPPTPまたはL2TP/IPsecのanonymous接続の設定を行い、登録したanonymousユーザーが接続したときにIPv6CPがUPすると、接続/切断が行われるたびにメモリーリークが発生するバグを修正した。
- [13] DPIで、以下のアプリケーションが、show dpi applicationコマンドの実行結果に表示されるバグを修正した。
- rtp
 - yamaha
- [14] PPPoE、L2TP、PPTP、またはモバイル接続（モデム方式）で、以下の条件をすべて満たすとき認証エラーになるバグを修正した。
- 認証プロトコルがMS-CHAPまたはMS-CHAPv2である
 - パスワードが33文字以上である
- [15] L2TPv3/IPsecで、以下の条件をすべて満たす場合に接続できないバグを修正した。
- トンネルの端点がIPv6アドレスである
 - トンネル番号が「1」以外に設定されている
 - ファストパスが有効になっている
 - IPsecがアグレッシブモードで設定されている
- [16] L2MSで新規のエージェントを検出したとき、当該エージェントが消失端末として端末一覧に表示されることがあるバグを修正した。
- [17] LAN分割インターフェースで、PPPoEパケットを受信したときにファストパスで処理されないバグを修正した。
- Rev. 15. 02. 20以降で発生する。
- [18] LAN分割インターフェースで、ノーマルパスで処理されたPPPoE接続の送信パケット数がカウントされないバグを修正した。

- [19] PPPoE接続で、LAN分割インターフェースを使用しているとき、PPインターフェースのノーマルパスの送信パケット数が1パケットにつき4バイト多くカウントされるバグを修正しました。
- [20] SNMPで、PPインターフェースから送信したブロードキャストのパケットが、ユニキャストのパケットとしてカウントされるバグを修正した。
具体的には、ifOutNUcastPkts、ifOutMulticastPkts、ifHCOutMulticastPktsではなく、ifOutUcastPkts、ifHCOutUcastPktsとしてカウントされる。
- [21] SNMPで、SNMPトラップのtimestampフィールドの値がBasic Encoding Ruleに従っていないバグを修正した。
このため、特定のSNMPマネージャーでは表示が不正になることがあった。
- [22] ファストパスで、仮想LANインターフェースで受信したIPv6マルチキャストパケットを処理したときに発生する以下のバグを修正した。
- show status lanコマンドで受信パケットのサイズがカウントされない
- 以下のMIB変数が物理LANインターフェースと仮想LANインターフェースとで二重にカウントされる
- ifInOctets
- ifHCInOctets
- 物理LANインターフェースのMIB変数でユニキャストとしてカウントされる
- [23] ファストパスで、PPインターフェースへ送信するIPv4パケットを処理すると、PPインターフェースで送信パケットの数がカウントされないバグを修正した。
- [24] ファストパスで、トンネルインターフェースで受信した異なるトンネルインターフェースへ転送するパケットを処理したとき、受信パケットの数やサイズがカウントされないバグを修正した。
- [25] ファストパスで、IPIP(IPv6 over IPv4/IPv6)トンネル上に、IPsec、L2TPv3、L2TPv3/IPsecのいずれかのトンネルを使用している構成でパケットを処理すると、IPIPトンネルインターフェースの以下のMIB変数がカウントされないバグを修正した。
- ifInUcastPkts
- ifHCInUcastPkts
- ifInOctets
- ifHCInOctets
- [26] ファストパスで、トンネルインターフェースで受信したIPv4パケットをL2TP/IPsecが設定されたトンネルインターフェースへ転送したとき、show status tunnelコマンドで表示される受信パケットの数やサイズがカウントされないバグを修正した。
- [27] ファストパスで、仮想LANインターフェースで受信したパケットをトンネルインターフェースへ転送したとき、受信パケットの数やサイズがカウントされないバグを修正した。
- [28] ファストパスで、仮想LANインターフェースで受信したIPv4パケットをL2TP/IPsecが設定されたトンネルインターフェースへ転送したとき、受信パケットの数やサイズがカウントされないバグを修正した。
- [29] ファストパスで、仮想LANインターフェースで受信したカプセル化されたパケットを処理すると、SNMPのMIB変数が誤ったインターフェースでカウントされるバグを修正した。
- [30] ファストパスで、LAN分割インターフェースで受信したIPv6マルチキャストパケットを処理すると、受信パケットのオクテット数が1パケットにつき4バイト多くカウントされるバグを修正した。
- [31] ファストパスで、仮想LANインターフェースに設定したPPインターフェースからパケットを送信したとき、仮想LANインターフェースで以下のMIB変数がカウントされないバグを修正した。
- ifOutOctets
- ifOutUcastPkts

- ifHCOutOctets
- ifHCOutUcastPkts

- [32] RIPv2、OSPFおよびBGPで、宛先が0.0.0.0かつネットマスクが0ではない経路の広告がデフォルト経路として取り込まれるバグを修正した。
- [33] OSPFまたはBGPで、以下の条件をすべて満たすとき、削除された経路がルーティングテーブルに残ることがあるバグを修正した。
- OSPFまたはBGPから同じ宛先の経路を複数導入している
 - 上記経路と同じ宛先の経路を静的経路で設定している
 - OSPFまたはBGP経路の優先度が静的経路より高い
 - 優先度が最も高い経路と次に高い経路が同時に削除される
- [34] BGP機能で、ルーティングテーブルに導入されない経路を受信後、同一経路がルーティングテーブルに導入される経路に変化してもルーティングテーブルに導入しなくなる可能性があるバグを修正した。
- Rev. 15.02.20以降で発生する。
- [35] データコネクト拠点間接続機能でNGN回線を利用したとき、DHCP更新時に情報に変更が無いにもかかわらず経路情報が上書きされ、通信が切断することがあるバグを修正した。
- [36] PPPoEパススルー機能で、PPPoEパススルー機能を有効にするとLANインターフェースにプロミスキャスモードが設定されるが、無効にしても解除されないバグを修正した。
- [37] PPPoEパススルー機能で、LAN分割インターフェースを使用するとき、SNMPのMIB変数を不正なインターフェースでカウントされることがあるバグを修正した。
- [38] PPPoEパススルー機能で、LAN分割インターフェースを使用するとき、show status lanコマンドやSNMPのMIB変数でカウントされるパケットのオクテット数が1パケットにつき4バイト多くなるバグを修正した。
- [39] PPPoEパススルー機能で、ファストパスで処理されたIPv6 PPPoEパケットをSNMPのMIB変数でカウントされないバグを修正した。
- [40] PPPoE接続で、LAN分割インターフェースを使用をしているとき、ノーマルパスで処理されたIPv6の受信パケット数がカウントされないバグを修正した。
- [41] IPv6で、ルーター発のIPv6パケットの送信元アドレスに、MAP-Eトンネルに設定されたグローバルIPv6アドレスが使用されることがあるバグを修正した。
- [42] ネットボランチDNS機能で、MAP-Eトンネルに設定されたグローバルIPv6アドレスが登録されることがあるバグを修正した。
- [43] ngn typeコマンドが未設定のとき、DHCPv6-PDクライアントとしてルーターが送信するSolicitメッセージに不正なIA Prefixオプションが付与されるバグを修正した。
- [44] ブリッジインターフェースで、ブリッジインターフェースに收容するとそのLANインターフェースにプロミスキャスモードが設定されるが、收容から外しても解除されないバグを修正した。
- [45] 高負荷によりパケットバッファが枯渇する状態が続いた後、負荷が下がったにもかかわらず、最大1024パケットの受信に失敗することがあるバグを修正した。
- [46] clear status bridgeコマンドを実行したとき、LAN1インターフェースで処理されたノーマルパスのIPv6の送受信パケット数がクリアされるバグを修正した。
- [47] show status ipv6 dhcpコマンドで、Information-Requestに対するReplyの応答状態を示す「state : reply」が複数行表示されてしまうことがあるバグを修正した。
- [48] queue class filterコマンドで、送信元または宛先に' map-e'、' hb46pp' を入力してもエラーにならないことがあるバグを修正した。

- [49] show environmentコマンドを実行したとき、セキュリティークラスにSSHパラメーターが表示されないバグを修正した。
- [50] 以下のコマンドや経路変更時のログで、宛先が0.0.0.0かつネットマスクが0でない経路が「default」と表示されるバグを修正した。
- show ip route
 - show ip rip table
 - show status bgp neighbor
- [51] Web GUIの以下のページのテキストボックスで、半角カタカナを入力してもエラーにならないバグを修正した。
半角カタカナのみを入力したときは、[設定の確定]ボタンを押しても設定されない。
- かんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]
 - IPsec
 - 設定名
 - 自分側のID
 - 接続先のホスト名またはIPアドレス
 - 接続先のID
 - 認証鍵 (pre-shared key)
 - PPTP
 - 設定名
 - ユーザーID
 - 接続パスワード
 - IPIP
 - 設定名
 - データコネクト (IPsec)
 - 設定名
 - 認証鍵 (pre-shared key)
 - データコネクト (IPUDP)
 - 設定名
 - かんたん設定の[VPN]-[リモートアクセス]
 - 認証鍵 (pre-shared key)
- [52] Web GUIのLANマップの「リンクアグリゲーションの設定」ダイアログで、インターフェースの一覧の[設定]/[追加]ボタン以外の場所をクリックしても「論理インターフェースの基本設定」ダイアログを表示するバグを修正した。
- [53] Web GUIのかんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]で、IPsecを用いたデータコネクト拠点間接続を設定するとき、入力内容の確認ページで不正なインターフェース名を表示するバグを修正した。
- [54] Web GUIのかんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]で、以下の接続種別を設定するとき、設定ページと入力内容の確認ページで認証アルゴリズムの表記が揃っていないバグを修正した。
- IPsec
 - データコネクト (IPsec)
- [55] Web GUIのダッシュボードの[History]の「統計情報の記録機能の設定」ダイアログで、パスワードを入力したとき、画面が一番上までスクロールしてしまうバグを修正した。
- [56] Web GUIのダッシュボードの以下のガジェットで、グラフが崩れて表示されることがあるバグを修正した。
- トラフィック情報 (LAN)
 - トラフィック情報 (PP)
 - トラフィック情報 (TUNNEL)
- Rev. 15.02.31で発生する。
- [57] Web GUIのLANマップで、dns hostコマンドが先に設定された状態でタグVLANの新規作成または変更を行ったときに、dns hostコマンドへのタグVLANの設定変更が保存されないバグを修正した。

- [58] Web GUIのLANマップで、タグVLANの新規作成、変更または削除を行ったとき、保存が複数回実行されるバグを修正した。
- [59] Web GUIのかんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]-[IPsecに関する設定]で、「接続先のホスト名またはIPアドレス」に不正なIPアドレスを入力してもエラーにならないバグを修正した。
- [60] Web GUIで、以下のプロバイダー接続と拠点間接続VPNまたはリモートアクセスVPNを設定した状態で、プロバイダー接続の設定を動的IPアドレスまたはIPv4 over IPv6トンネル未使用のプロバイダー接続に変更したとき、VPN接続の静的IPマスカレードの設定が削除されないバグを修正した。
- IPv6 IPoE接続
 - 国内標準プロビジョニング方式による自動接続
 - BIGLOBE IPv6サービス (IPIP)
 - OCNバーチャルコネクト 固定IP1契約
 - transix IPv4 接続 (固定 IP)
 - v6 コネクト IPv4 over IPv6 接続 (IPIP)
 - v6 プラス固定 IP サービス
 - クロスパス (Xpass) 固定 IP1 契約
- [61] Web GUIで、以下のプロバイダー接続と拠点間接続VPNまたはリモートアクセスVPNを設定した状態で、プロバイダー接続の設定を削除したとき、VPN接続の静的IPマスカレードの設定が削除されないバグを修正した。
- IPv6 IPoE接続
 - 国内標準プロビジョニング方式による自動接続
 - BIGLOBE IPv6サービス (IPIP)
 - OCNバーチャルコネクト 固定IP1契約
 - transix IPv4 接続 (固定 IP)
 - v6 コネクト IPv4 over IPv6 接続 (IPIP)
 - v6 プラス固定 IP サービス
 - クロスパス (Xpass) 固定 IP1 契約
- [62] Web GUIのかんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]で、IPsec/IKEv1接続の設定を変更したとき、以下のコマンドの設定値が意図せず変更されることがあるバグを修正した。
- ip tunnel tcp mss limit auto
 - ipsec ike keepalive log
 - ipsec ike keepalive use
 - ipsec ike nat-traversal
 - ipsec sa policy
- [63] Web GUIのかんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]で、データコネクト接続 (IPsec) の設定を変更したとき、以下のコマンドの設定値が意図せず変更されることがあるバグを修正した。
- ipsec sa policy
 - ipsec ike nat-traversal
- [64] Web GUIの以下のページでプロバイダー接続、またはNATディスクリプターの設定を削除するとき、対象のプロバイダー接続に同じ番号のNATディスクリプターが複数適用されていると、一部のNATディスクリプターが削除されないことがあるバグを修正した。
- かんたん設定の[プロバイダー接続]
 - 詳細設定の[プロバイダー接続]
 - 詳細設定の[プロバイダー接続]-[設定内容]-[NATの設定]
- [65] Web GUIのかんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]で、コマンドラインからIPsec/IKEv2での拠点間接続が設定されているとき、Web GUIではIPsec/IKEv2での拠点間接続に対応していないのにも関わらず「接続設定の一覧」にIPsec接続と表示されるバグを修正した。
- [66] Web GUIの[管理]-[保守]-[CONFIGファイルの管理]-[CONFIGファイルのエクスポート]で、「エクスポート先のファイル」への入力値が原因にもかかわらず「エクスポートするファイル」の入力値が原因とするエラーメッセージが表示されることがあるバグを修正した。

- [67] Web GUIの詳細設定の[プロバイダー接続]で、IPv6 PPPoE接続にMTUの設定をしたとき、`ipv6 pp mtu`コマンドではなく`ip pp mtu`コマンドが設定されるバグを修正した。
- [68] Web GUIの詳細設定の[プロバイダー接続]-[設定内容]で、IPv6 PPPoE接続の「MTUの値」に、`ipv6 pp mtu`コマンドではなく`ip pp mtu`コマンドの値が表示されるバグを修正した。
- [69] Web GUIのかんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]で、データコネク ト拠点間接続を設定するとき、以下のテキストボックスが未入力状態で[次へ]ボタンを押した場合に不適切なエラーメッセージが表示されるバグを修正した。
- 自分側のひかり電話番号
 - 使用する帯域の任意の値
 - 接続先のひかり電話番号
- [70] Web GUIの以下のページで、RTproのURLの表記を「http:」から「https:」に修正した。
- かんたん設定の[アプリケーション制御]
 - 管理の[本体の設定]-[DOWNLOAD ボタンの設定]-[入力内容の確認]-[ソフトウェアライセンス利用規約]
- [71] Web GUIの以下のヘルプページで、RTproのURLの表記を「http:」から「https:」に修正した。
- 全般の[はじめに]
 - ダッシュボードの[概要]
 - かんたん設定の[YN0エージェント]
 - 詳細設定の[プロバイダー接続]
 - 詳細設定の[NAT]
 - 詳細設定の[セキュリティー]-[URLフィルター]
 - 管理の[外部デバイス連携]-[USB / microSD]
 - 管理の[保守]-[コマンドの実行]
- [72] Web GUIで、拠点間接続VPNおよびリモートアクセスVPNが設定されている状態で以下のプロバイダー接続の設定を行うと、VPN接続ができなくなるバグを修正した。
- IPv6 IPoE接続
 - 国内標準プロビジョニング方式による自動接続
 - BIGLOBE IPv6サービス (IPIP)
 - OCNバーチャルコネク ト 固定IP1契約
 - transix IPv4 接続 (固定 IP)
 - v6 コネク ト IPv4 over IPv6 接続 (IPIP)
 - v6 プラス固定 IP サービス
 - クロスパス (Xpass) 固定 IP1 契約
- [73] Web GUIのかんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]-[IPsecに関する設定]で、`ipsec ike remote address`コマンドに`any`が設定されている場合、「接続先のホスト名またはIPアドレス」に設定値が表示されないバグを修正した。
- [74] `show status ipv6 dhcp`コマンドで、実行時に表示される項目名の誤記を修正した。
- [75] 以下のコマンドのコマンドヘルプの誤記を修正した。
- `dhcp scope`
 - `ipv6 INTERFACE rtadv send`
 - `ipv6 prefix`
 - `show ip connection`
 - `show ipv6 connection`
- [76] `ex-license password`コマンドの英文ヘルプの誤記を修正した。
- [77] Web GUIの以下のヘルプページで、誤記を修正した。
- かんたん設定の[プロバイダー接続]
 - 詳細設定の[プロバイダー接続]
 - 詳細設定の[NAT]

Jul. 2025, Rev. 15.02.33 リリース
以上